



ひだまり

令和6年度 第3号

こんにちは、第2ブロック家庭教育委員会です。日頃よりPTA活動へご理解・ご協力賜りありがとうございます。夏の暑さもひと段落し、朝晩と涼しさも感じることも増えてきました。夏バテなどに悩まされていた方も過ごしやすくなってきたのではないのでしょうか。とはいえ、日中はまだ暑い日もまだあります。体調には引き続き気をつけていきましょう。

さて、9月21日に学習会を開催しました。講演内容についてまとめてみましたので、ご家庭でのお子様とのやり取りに活かしていただけたらと思います。

テーマ 「子育てとお金」

～保護者自身を知っておきたいこと、子どもに伝えたいこと～

講師 静岡県金融広報アドバイザー 安藤絵理先生

静岡市生まれ。2003年安藤絵里ファイナンシャルプランニング設立。個人のコンサルティングを行う傍ら、金融機関の研修、セミナー講師、TVやラジオ出演など幅広く活動される。常葉大学短期学部の非常勤講師も務める。平成20年度には、金融庁及び日本銀行より金融庁知識普及功労者として表彰される。



キャッシュレス時代だからこそお金やモノの大切さを教える

健全な金銭感覚を身につけることが必要。支払いツールにお金を入れて利用しているというのが見えにくいため、それらをお金と認識しがたく、使えば何でも手に入ると思いがち。**お金は簡単にもらえるものではない**ということを子どもと話し合っていきましょう。

低学年



高学年



成人

「モノを大切に使う」

⇒ 「お金の使い方」

⇒ 「貯蓄・投資」



◆浪費のタネをまかない◆

家庭ではお小遣いのルール決めをしていますが、子どもは祖父母に言えばお金をもらえと思っているケースも多い。祖父母にも家庭のお小遣いルールに協力してもらう。

◆モノを大切に扱うことを教える◆

現代の子ども達は、豊かなものに囲まれて何不自由なく暮らしており、モノを大切にしない子どもが多い。また、たくさんのお小遣いをもらうが、勤労の尊さがわからない。

- 「お金」は、一生懸命働いて、はじめて手に入るものだ と教える。
…父母の職業・仕事内容について色々話してみる。可能なら職場見学も。



- 最後まで使う習慣をつける。なくしたと思っても、直ぐに買わないで一緒に探す。
…なくしたら買えばいいと思わないように。
- 持ち物を一緒に整理してみる
…使わないおもちゃ、文房具など。まだ使えるものは欲しい人がいたらあげる。
- 必要なモノ(ないと困る) vs 欲しいもの(あればいいな)
お金は限られている!「必要なもの」と「欲しいもの」どちらから買ったらいいか、子どもに考えさせる。

◆おこづかいあげる?あげない? ルールを決める◆

①お小遣いの範囲を親子で相談して、金額をきちんと決める。

～子どもの年齢だけでなく、性格によっても違う～

- ・おやつ代だけなのか、学校の文房具や本、おもちゃまで賄うのか
- ・あげる頻度はどうするのか

②途中で足りなくなっても、決して追加しない

なくなったら、我慢させることが大切。決まった範囲内でやりくりし、使えるお金は限度があると覚えることが大切。

③「おこづかい帳」をつけさせる

- ・自分で管理させる。足りるかな?という意識をみにつける。
- ・電子マネーを使用した履歴もおこづかい帳をつけさせたほうがよい。

まとめ

お金をつかう親の姿は子どもの鏡。子ども達にお金を自分で使う機会を意識的に作ってあげることが大切。最初のころは多少の失敗はOK。失敗することで身につくことも。少しずつ練習していくことが大切。一緒に買い物をして、モノの値段、価値も教えていく。

感想

- ・金融について幅広く学ぶことができた。
- ・子どもとお金の付き合い方とできることから始めていこうと思った。